

参考資料

現行の森林整備保全事業計画の
成果指標の達成状況

現行計画の成果指標の達成状況

事業の目標:「安全・安心な暮らしを支える国土の形成への寄与」

成果指標① 土壌を保持し水を育む機能が良好に保たれている森林の割合

現況値 74% (H25) → 目標値 78% (H30)
(間伐等を実施しない場合56%に低下)

算出方法 $A+B/C(\%)$

A 5年間整備が実施されていない森林のうち、下層植生の被覆率40%以上となっている森林の割合

※ 1万5千点のサンプリング調査結果より推定

B 間伐等の実施による効果面積

C 対象森林面積: 3齢級以上の水源涵養機能維持増進森林等 640万ha

現況値は、Bを過去5年間の実績として算出。目標値は、全国森林計画(H26~40年度)の間伐計画量等を踏まえて設定。

達成率60%※1

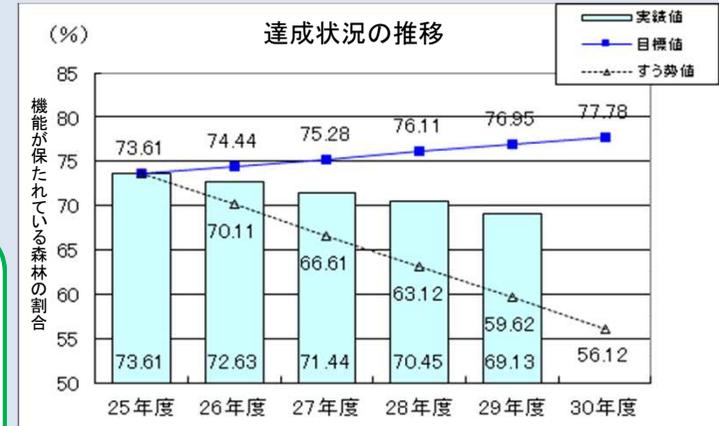
実績値
69% (H29)

アウトプット

(想定) 間伐、本数調整伐等 約36万ha※2
(H26~H30年平均)

(実績) 間伐、本数調整伐等 約21万ha※3
(H26~H29年平均)

約60%(単年度平均)



※1 H30目標に対するH29実績の達成率

※2 H26~H30累計:約180万ha、※3 H26~H29累計:約83万ha

【評価】 29年度時点の達成率は60%※1。30年度の達成率は6割程度となる見込み。予算事情のほか自然災害の発生による事業の遅れや取り止め等により間伐等が想定ほど実施できなかったことが要因。

成果指標② 周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮された集落の数

現況値 5万5千集落 (H25)
→ 目標値 5万8千集落 (H30)

算出方法

集落周辺に存する山地災害危険地区において、治山施設の整備等を行うことにより、保全される集落の数。

目標値は、保全対象の重要性等を踏まえつつ治山対策を推進することにより、周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮された集落の数を増加させることとして設定。

達成率39%※1

実績値(H29)
5万6千集落

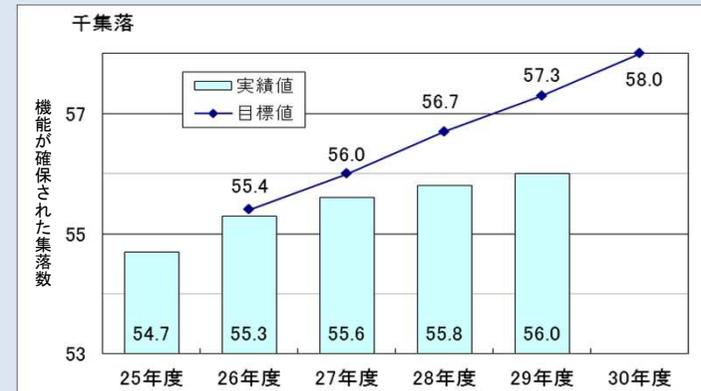
※保全すべき集落の総数:約14万集落

アウトプット

(想定) 治山対策の実施箇所 約8千箇所※2
(H26~H30年平均)

(実績) 治山対策の実施箇所 約3.8千箇所※3
(H26~H29年平均)

約50%(単年度平均)



※1 H30目標に対するH29見込みの達成率

※2 H26~H30累計:約4万箇所

※3 H26~H29累計:約1.5万箇所

【評価】 29年度時点の達成率は39%※1。30年度の達成率は5割程度となる見込み。地震や集中豪雨等により、毎年激甚な山地災害が発生していることで、既に保全された集落においても更なる対策が必要となっていることなどが要因。

成果指標③ 海岸防災林や防風林などの延長約7,400kmについて、海岸浸食等から守ることにより近接する市街地等が保全されている割合

目標値 約7,400kmの保全

算出方法

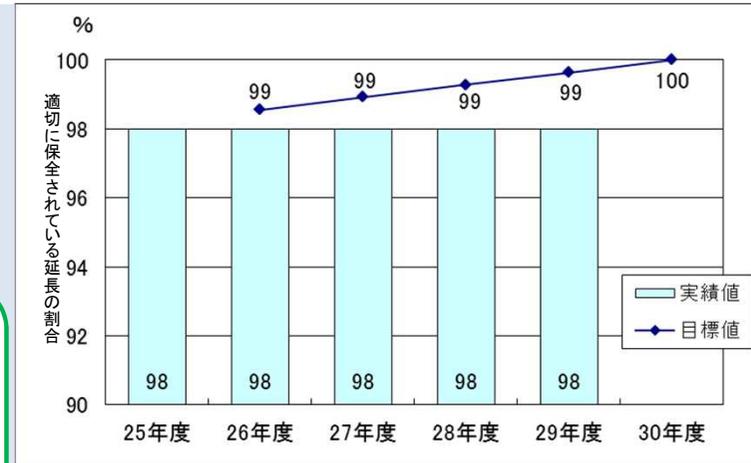
海岸防災林等(飛砂防備、防風、潮害防備、防雪、防霧保安林)延長7,400kmのうち、治山事業等により適切に保全されている延長の割合

達成率98% ※1

実績値(H29)
98%

アウトプット

(想定) 復旧延長28km ※2
(H26~H30年平均)
(実績) 復旧延長24km ※3
(H26~H29年平均) **約90%**
(単年度平均)



※1 H30目標に対するH29見込み値の達成率
 ※2 H26~H30累計:約140km
 ※3 H26~H29累計:約120km

【評価】 29年度時点の達成率は98%。毎年、一定程度の海岸防災林等の復旧・整備を行っているものの、台風等により機能の低下した海岸防災林等が新たに生じている状況。

事業の目標:「生物多様性保全等の多様なニーズへの対応」

成果指標④ 公益的機能の一層の発揮のため自然条件等を踏まえて育成複層林に誘導することとされている350万haの育成単層林のうち、育成複層林に誘導した森林の割合

現況値 0.8% (H25) → 目標値 2.8% (H30)

算出方法 (B-C) / A (%)

A 森林・林業基本計画において、H22年から指向する森林の状態に向け、公益的機能の一層の発揮のため自然条件等を踏まえて育成複層林に誘導することとされている育成単層林の面積(350万ha)

B AのうちH30年までに育成複層林へ誘導すべき面積(9.7万ha)

C AのうちH25年までに育成複層林へ誘導済みの面積(2.7万ha)

現状値は、森林資源現況調査結果により算出。目標値は、全国森林計画のH40年の育成複層林目標面積を踏まえてH30年時点の目標値を設定。

達成率45% ※1

実績値(H29)
1.7%

アウトプット

(想定) 受光伐、誘導伐等 約1.4万ha ※2
(H26~H30年平均)
(実績) 受光伐、誘導伐等 約0.9万ha ※3
(H26~H29年平均) **約60%**
(単年度平均)



※1 H30目標に対するH29実績の達成率
 ※2 H26~H30累計:約7万ha、※3 H26~H29累計:約3.4万ha

【評価】 29年度時点の達成率は45% ※1。30年度の達成率は、6割程度となる見込み。森林所有者が複層林施業に対してメリットを感じにくく、自発的な森林整備が進まないことなどが要因。

成果指標⑤ 森林環境教育の参加人数

現況値 44万人 (H25) → 目標値 244万人 (H30)
(5年間累計で)

算出方法

国有林野や地方公共団体が設置・管理する森林公園等を対象とした森林環境教育活動への参加者数。

目標値は、小学校～高校までの12年間で2回、森林環境教育等に参加することとして、5年間の対象年齢人口から算出。

達成※1

実績値(H29)
262.8万人

アウトプット

森林公園等における施設整備
及び森林公園、周辺森林等での森林整備



※1 H30目標に対するH29実績の達成率

【評価】 29年度までの延べ参加者数の実績値は262.8万人であり、目標を達成。
【課題】 森林環境教育の推進にあたっては、公園施設の整備等のハード事業の推進から、提供する森林環境教育の内容(ソフト)を重視する段階に移行。このため、公共事業の成果指標としては馴染みにくくなっている状況。

事業の目標:「持続的な森林経営の推進」

成果指標⑥ 木材として安定的かつ効率的な供給が可能となる育成林の資源量

現況値 13億2千万 m³ (H25) → 目標値 15億4千万 m³ (H30)

算出方法

既設の路網及び毎年開設する路網に係る、林道等から200m以内における森林の蓄積を推計し供給可能となる資源量を算出。

目標値は、全国森林計画の路網開設延長(27.8千km)及び森林資源現況調査から推計した森林資源増加量を考慮し、林道・作業道係数※を用いて5年後の供給可能資源量を算出。

※ 林道、作業道(小型トラックが通行可能な作業道)毎に全国調査を行って算出した路網開設延長100mあたりの「増加した200m以内の森林面積」の係数。

達成率77%※1

実績値(H29)
14億9千万 m³

アウトプット

(想定)
林道、林業専用道、作業道※2の開設 5.6千km ※3
(H26～H30 年平均)

約90% (単年度平均)

(実績)
林道、林業専用道、作業道※2の開設 5.2千km ※4
(H26～H29 年平均)



※1 H30目標に対するH29見込み値の達成率

※2 小型トラックが通行可能な作業道(作業道の一部)

※3 H26～H30累計:約27.8万km、※4 H26～H29累計:約20.7万km

【評価】 29年度時点の達成率は77% ※1。各年度の目標値は概ね達成してきており、30年度も目標値をほぼ達成できる見込み。

成果指標⑦ (1) 齢級構成の平準化の進捗率
(2) 齢級構成の平準化に資する育成単層林の平均林齢の若返りの程度を示す値

現況値 (1) 7% (H24) → 目標値 (1) 10% (H29)
(2) 0.19年 (H25) → (2) 1.70年 (H30)

算出方法

(1) 齢級別面積について、平均値からのばらつき具合を表す値(分散)を算出。H14年の分散を0%とし、指向する森林の状態(H122年)を100%として、人工林の育成単層林の齢級構成の平準化の進捗率を算出。

(2) $A \times B / C (\%)$

A 再造林面積(ha)、B 平均伐採林齢(90年)、C 指向状態の育成単層林面積(660万ha)

現状値は、H24年度の再造林実績見込みにより算出。目標値は、全国森林計画の当初5年間の年平均の再造林面積を踏まえて設定。

達成率 (1) 100%※1

(2) 54%※1

実績値(1) 10%(H29)
(2) 0.92年(H29)

アウトプット (上記(2))

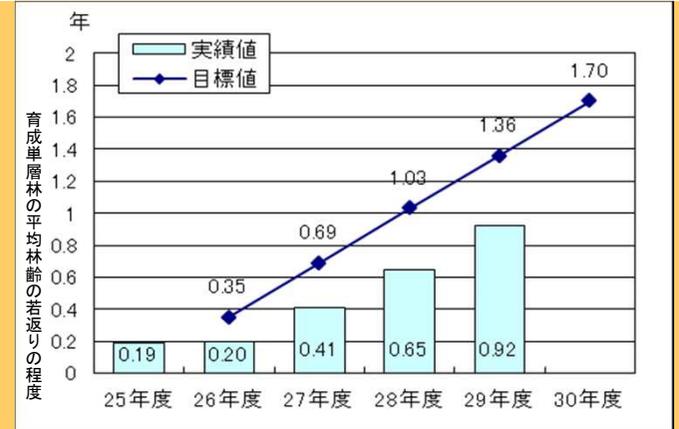
(想定)

再造林 約2.5万ha※3 (H26~H30年平均)

約70% (単年度平均)

(実績)

再造林 約1.7万ha※4 (H26~H29年平均)



※1 現況はH24確定値、目標値はH29時点として設定

※2 H30目標に対するH29実績の達成率

※3 H26~H30累計: 約13万ha、※4 H26~H29累計: 約6.8万ha

【評価】 (1)は、面積の多い齢級を中心に主伐が進んだことにより目標を達成。(2)は29年度時点の達成率は54%※2。30年度の達成率は7割程度となる見込み。経営意欲の低下等から再造林が進んでいないことが要因。

【課題】 両指標とも長期的な視点からの指標であるが、再造林に注目が集まる中で、5年間の計画期間での事業効果をよりわかりやすく示していくことが必要。

事業の目標: 「山村地域の活力創造への寄与」

成果指標⑧ 森林資源を積極的に利用している流域数

現況値 58流域 (H25) → 目標値 80流域 (H30)

算出方法

森林・林業基本計画を踏まえた間伐材供給の増加量(累計)に対する路網開設により新たに利用可能となる間伐材の量(累計)の割合を推計し、割合が一定水準を超えている流域数を算出。

目標値は、次期計画期間内における全国森林計画の路網開設計画延長等から算出。

達成率79%※1

実績値(H29) 63流域

アウトプット

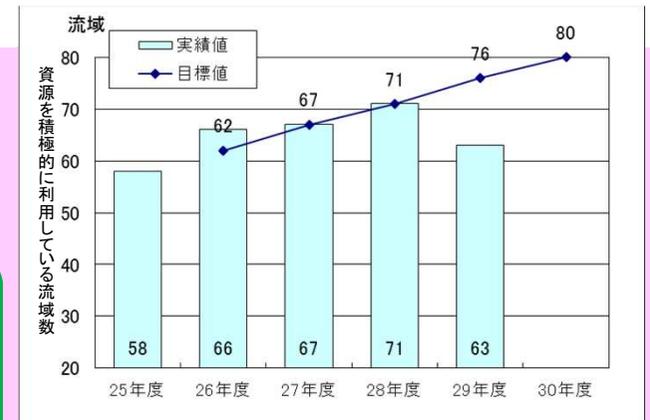
(想定)

林道、林業専用道、作業道※2の開設 5.6千km※3 (H26~H30年平均)

約90% (単年度平均)

(実績)

林道、林業専用道、作業道※2の開設 5.2千km※4 (H26~H29年平均)



※1 H30目標に対するH29見込み値の達成率

※2 小型トラックが通行可能な森林作業道(森林作業道の一部)

※3 H26~H30累計: 約27.8千km、※4 H26~H29累計: 約20.7千km

【評価】 29年度時点での達成率は79%※1。全体としての開設延長実績は伸びているものの、流域毎の進捗のバラツキ等により、達成流域数が増減。

【課題】 利用可能となる間伐材の量を評価しているが、主伐による生産量が増加してきている中で、地域活性化の視点から主伐材の量も考慮する必要。